

令和4年度 本校の多忙化改善に向けた計画

このところ、学校現場が抱える広範で膨大な職務や諸課題により、教員の多忙化が注目されるようになってきました。そのため、教員が子供と直接関わる時間が大幅に少なくなってきました。このような現状を改善すべく、教育委員会の指導の下、各校で設定した「多忙化改善計画」に基づき、わずかずつでも教員が時間的にも精神的にもゆとりをもって子供と向き合えるようにしていきたいと考えております。子供一人一人と接する機会が増すことにより、教員としての本来的な責務を果たし、教育の質を高めることに繋がるものと確信しております。つきましては、保護者の皆様にもご理解とご協力をお願いいたします。

項目	現状と課題	①R4年度に実施する内容 ②R5年度に向けて検討する内容
会議等の効率化	提案時間の削減を図ってきた。さらに提案者の意識を高め、短時間の中で効率的に会議を進行したい。討議事項と連絡事項を明確に区別し、会議時間を短縮する。	① 会議の短縮を図るため、資料は事前配布とし、事前に確認しておく。 ② 電子掲示板、資料の電子化等により、報告・連絡などの周知徹底の効率化を図る。
学校行事の負担軽減	コロナ禍で、行事の軽重が見えてきた。前年踏襲で進めるのではなく、内容と方法の工夫を図りたい。コロナ禍で見直した行事の運営を再び検証し、教育効果を高めつつ職員の多忙感を解消する。	① 運動会の取り組みを見直し、種目内容、運営の効率化に取り組む。他の学校行事の運営についても内容を検討し、効率化を図る ② 令和4年度の実践から得た課題の解決に取り組む。
校内組織の見直し	他分掌間の連携による業務の削減と各組織の改編を行ってきたが、改善した組織で期待する教育的効果が得られているか検証の必要がある協働体制を確立し、業務の役割分担の明確化・適正化を図る。	① 業務量の多い校務分掌は、全学年から代表者を選出し、役割分担をする中で、個々の仕事量を減らし、負担の軽減を図る。 ② 校務分掌等でメンター制度を活用するなどし、若手教員の人材が育つ土台作りをする。
業務の効率化	大規模校のため、一人当たりの業務負担が大きい。教育活動に活用する消耗品、備品、施設等も不十分な部分もある。ICTの活用による、情報の共有化、オンラインによる会議の設定、事務処理の効率化、各種調査の精選と効率化を図る。	① 教材及び分掌業務の電子データの共有化、オンライン会議の設定と会議の短縮化 ② 校外からの各種応募、参加要請等の見直しをする。各種連携事業の有効性を見直しをする。
部活動の負担軽減		
地域人材の活用	地域人材の活用が十分ではなく、リストも整備されていない。玉諸地区の良さを生かした地域と一体になった教育活動の充実と地域人材の活用をしていく。	① 地域の教員OB等のボランティアを募り、適材を適所をお願いする形で有効活用し、教職員の負担を軽減しつつ、児童への指導を手厚くする。 ② ボランティア運用の業務改善を図り、担当者の負担を軽減する。
(学校独自の項目)	職員の退勤時間が遅い傾向にある。休日出勤をして、仕事をする職員もいる。全職員が最低でも1週間に1回は定時退勤日を設定し、完全実施を目指す。	① 1カ月に数回、各学年で定時退勤日を設定し、設定日は18:00を目指して退勤する。管理職も率先して退勤を促す。 ② これまでの取り組みをもとに、成果と課題を明確にし、R5年度以降の取り組みに生かす。
(学校独自の項目)	PTA活動の内容について見直しが不十分である。現状より内容を減じた状態にする。	① 活動内容を見直し、教職員の負担を減じ、教材研究にかける時間を確保する。 ② 令和4年度の実践から得た課題の解決に取り組む。